

弊社役員、早期地震検知手法の研究成果で 「地震学会論文賞」受賞

弊社役員（小高俊一代表取締役社長と芦谷公稔取締役の二人）が、2005年日本地震学会論文賞を受賞しました。

2005年日本地震学会論文賞

受賞論文「P波エンベロープ形状を用いた早期地震諸元推定法」

概要

観測点に到達した地震波のP波初動のはじめの1～3秒間を解析して、波の立ち上がりの傾斜角と振幅から震央距離とマグニチュードを即座に推定できることを示しました。大きな地震は破壊が終了するまでに数十秒もかかり、数秒間で地震のマグニチュードを推定することは原理的に無理があると思われませんが、我々の方法では、時間的に成長する振幅を時々刻々追うことでマグニチュードの推定値を変更できることを示しました。



2005年日本地震学会論文賞で授与のメダル